

2003年10月19日

必要な分だけ集めなさい

[聖書]出エジプト記16章11～21節

11 主はモーセに仰せになった。12 「わたしは、イスラエルの人々の不平を聞いた。彼らに伝えるがよい。『あなたたちは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンを食べて満腹する。あなたたちはこうして、わたしがあなたたちの神、主であることを知るようになる』と。」

13 夕方になると、うずらが飛んで来て、宿営を覆い、朝には宿営の周りに露が降りた。14 この降りた露が蒸発すると、見よ、荒れ野の地表を覆って薄くて壊れやすいものが大地の霜のように薄く残っていた。

15 イスラエルの人々はそれを見て、これは一体何だろうと、口々に言った。彼らはそれが何であるか知らなかったからである。モーセは彼らに言った。「これこそ、主があなたたちに食物として与えられたパンである。16 主が命じられたことは次のことである。『あなたたちはそれぞれ必要な分、つまり一人当たり一オメルを集めよ。それぞれ自分の天幕にいる家族の数に応じて取るがよい。』」

17 イスラエルの人々はそのとおりにした。ある者は多く集め、ある者は少なく集めた。18 しかし、オメル升で量ってみると、多く集めた者も余ることなく、少なく集めた者も足りないことなく、それぞれが必要な分を集めた。19 モーセは彼らに、「だれもそれを、翌朝まで残しておいてはならない」と言ったが、20 彼らはモーセに聞き従わず、何人かはその一部を翌朝まで残しておいた。虫が付いて臭くなったので、モーセは彼らに向かって怒った。21 そこで、彼らは朝ごとにそれぞれ必要な分を集めた。日が高くなると、それは溶けてしまった。

[序] 農民が変わった

今日の礼拝献金は先週申しあげましたように、国連の「**世界食糧デー**」のためにお捧げします。世界では一日に**4万人**、**一年間で1500万人**の人が飢えのために死んでいます。そのうちの3/4は子どもです。飢えで死ぬ人が少しでも減るように私たちの献金がお役に立つことを願ってやみません。

よく言われることですが、安易な援助は自主性を損ないます。どうしたら自立を助ける援助が出来るか、それが大変難しい問題です。20年余前にフィリピンのミンダナオ島を訪れました。地元のキリスト教大学に、アメリカのクリスチャンたちから最新の農業機械が幾台も送られて来たけれども、故障が直せないで放ったらかしにされて、さび付いてしまったという話を聞きました。

私たちの献金の送り先である日本国際飢餓対策機構から、嬉しいニュースが送られてきました。ラオスで最も貧しい地域、北部ホアパン州の或る農村の農業用灌漑施設をつくるプログラムの経過報告です。それまで農民は木の幹や枝と泥で水を貯める堰を作ってきました。大雨が降ればたちどころに壊れてしまいます。そのたびに森に入って木を切り出しては作りなおしていました。

国際飢餓対策機構がセメントを使って建設する援助をすることにしました。先ずスタッフが地域の人たちとの話し合いに、時間とエネルギーを沢山使いました。現在抱えている村の問題、それはどうしたら解決できるか、村全体で取り組まなければならないこと、その第一はということで、皆の問題意識が灌漑施設の建設に絞られていきました。

そこで農民たちはスタッフと共同して州政府に企画書を書いて提出。州政府から許可が出ると、村の指導者やいろいろなグループとスタッフとで互いの役割分担と将来の展望などを討議し、確認します。建設作業に村の人の参加がどの位見込めるか、必要な砂・砂利・木材を提供してもらうことなどの合意を得ます。

それから作業の進め方や施設の構造についての学習、建設作業の訓練をしていよいよ工事の開始です。建設工事がほぼ終ると、施設の保守管理について訓練が行われます。施設が見事に完成し、引渡し式の席上で施設が村の所有であり、管理責任も村にあることが確認されます。こうして村の人々は改良や開発を自分たちで取り組むことが出来る農民に変えられていったのでした。

ずいぶん大変な手間のかかる開発援助ですが、でもこれが**本当の援助**ですね。きっとこのような開発援助が世界食糧デー献金で世界各地に進められているのでしょう。嬉しいニュースです。

今日は有名なマナの話から学ぶことにしました。イスラエルの民が、約430年間寄留していたエジプトから脱出し、シナイ半島に40年間留まりましたが、その時天から下るマナによって毎日養われた話です。

[1] オメル升で量ってみると

出エジプト記12章37・38節によりますと、エジプトを脱出したイスラエルの民は壮年男子だけで**約60万人**とあります。女性・子どもと、更に種々雑多な人を加えると**250万人以上**ということになります。1948年に建国された現在のイスラエルの1972年の人口がユダヤ人270万だそうですから、3,500年以上も前の250万人とは、多過ぎる数字です。そこで学者達によって色々な説がなされ、はっきりしません。しかし**大変大勢だった**ことは確かです。

先週の説教でパンの奇跡を取り上げましたが、あの時は壮年男子で**5,000人**とありましたから、女性・子どもを合わせて**約15,000人位**と考えました。それでも弟子のフィリポはこの群衆みんなにパンを与えようとするなど、無理な話だと考えました。エジプトを脱出した大群衆は15,000人どころではではありません。指導者のモーセにとって食糧問題がどんなに大変だったか想像できます。

人々は何かという食べ物不平を言ってエジプトに戻りたがりました。モーセはほとんど困り果てました。そこで神さまは夕方には**うずらの肉**、朝には**マナ**というパンを与えて、

彼らを養って下さいました。朝露が蒸発するとコエンドロの種に似て白く、ウエファースのような味のする、薄くて壊れやすいものが地面をおおっています。人々は「これは一体何だろう」(ヘブル語でマン・フー)といったのでマナと呼ばれるようになったのだそうです。モーセは言いました。「これこそ、主があなたたちに食物として与えられたパンである。主が命じられたことは次のことである。『あなたたちはそれぞれ**必要な分**、つまり一人当たり一オメルを集めよ。それぞれ自分の天幕にいる**家族の数に応じて取るが良い**。』」。またモーセは「翌朝まで残しておいてはいけない」と言いましたが、心配で次の日まで取っておき、腐らせてしまった者がいて、非常に叱られています。こうして毎朝その日必要な分だけ集めるルールが、皆に行き渡るようになりました。

ここで注目したい言葉があります。それは17・18節です。「**ある者は多く集め、ある者は少なく集めた**。しかしオメル升で量ってみると、多く集めた者も余ることなく、少なく集めた者も足りないことなく、それぞれが**必要な分**を集めた」。これは一体どういう意味なのでしょう。

夢中になって多く集めてしまった者が、天幕に帰って来てふと少ししか集められなかった隣人に気がついて、どうぞと分けて上げたので、丁度よい具合になったというのでしょうか。何かというと不満の声を上げ、エジプトで奴隷だった方がよほどまじだった、戻してくれと叫ぶ人たちです。分け合うなどということが、すっと出来たのでしょうか。

多く集めた者の家族には食べ盛りの大飯食いが沢山いたので余らなかった。少なく集めた者の家は年寄りや小さな子がいて余り食べないので不足しなかったという説のほうが、ちょっとどうかなと思うものの、現実味があります。しかし「**オメル升で量ってみると**」という言葉が記されているのです。この言葉もきちんと考えに入れなければなりません。するとこうなります。

元気な人は張り切って沢山集めた。しかしいざ升で量ってみたら、自分の家族の人数×一オメルでしかなかった。のんびり屋や力の弱い人は先を越されて、少ししか集められなかった。でも帰って来て升で量ったら、ちゃんと家族が一オメルずつ食べられる分量になっていた。パウロはここに**神さまの働き**を見していますが、私も同感です(第二コリント 8:14~15)。

私たちは力の強さの違いや、将来の備えについての意欲の違い等々で、多く集めたり、僅かしか集めなかったりと、まちまちです。境遇が貧しくて集めようとしても集められない人も多くいます。しかし一人の一日の**必要な分**は大体同じです。だから不必要に多く集めた者の量を減らし、少ししか集めなかった者の量を増やして、皆に**必要な分だけ与えようとお働きになる神さまの姿**が示されていると私は受け取りたいと思います。

[2] 多く集めても余らない

世界に飢えている人が 13 億もいます。それは地球が産みだす食糧の半分を全人口

の2割でしかない先進国が集めてしまうからです。日本は世界で一番の食糧輸入大国です。そしてまだ食べられる食品を一年間に13兆円も捨てています。先進国は自分たちがどんどん集めている食糧や富を発展途上国に戻していかなければなりません。貧富の格差は広がる一方です。

世界が今必要としている心は、パンを分け合う恵みを知って喜ぶ心ではないでしょうか。御自分の命を差し出し、**愛し合う喜び**を私たちに分け与えてくださったイエス・キリストにつながることによって、持っている物を出し合い分け合う心をいただくことだと、先週パンの奇跡から学びました。

今日のマナの奇跡は、**必要な分を与えようとなさる神さまの配慮**を教えてください。イスラエルの民は基本的には羊を飼う遊牧民です。しかしシンの荒れ野は、エジプトを脱出した大勢の人々の遊牧生活を支え切れません。そして慢性的な食糧不足に悩ませられたのでしょ。だから神さまは肉とパンを備えて下さいました。

ところがイスラエルの人の中には、今日はいいとしても、明日はどうなるのだろうと心配して、明日の分まで集めて腐らせてしまいました。マナは必要をご存知の神さまの働きの表れです。「今日だけ与えるけれども、明日は知らないよ」というはずがありません。事実神さまはイスラエルの人々が目的地のカナンに至るまで**40年間、毎日**マナを与え続けて下さいました(出エジプト16:35)。

神さまは今日の**必要な分**だけで良しとしないさいとお命じになります。でも私たちにはそれがなかなか出来ません。明日の必要な分、10年先の必要、老後の必要、そして子どもや孫の必要までと、**必要の中味**がどんどんふくらんでいくからです。少々の蓄えでは安心できないのです。

だからイエス・キリストは、「**なにを食べようか、何を飲もうか、何を着ようか**と言って、思い悩むな。」「**あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存知である。**」「**だから明日のことまで思い悩むな。**」(マタイ6:31~34)とおっしゃいました。

明日のことまで思い煩うから、私たちは必要以上の多くを集めてしまいます。そういう私たちに語りかける神さまの言葉が、「**天の父は必要をご存知である**」です。「天の父は必要をご存知である」というお言葉で十分なのです。必要なのは**天の父に対する私たちのゆるぎない信頼**です。

更に神さまは、**多く集めても必要な分だけ、少なく集めてたら必要な分を与えようと配慮される**神さまです。パウロは何故困っている人を助ける**慈善**をするのかという理由として、豊かであったのにその豊かさを私たちに与えて、ご自分が貧しくなられたイエス・キリストのお姿を述べています。豊かな者の豊かさが貧しい者の上に移されることによって、**釣り合いをとる働き**を神さまは進めておられると言うのです(第二コリント8:9~15)。

米国のブッシュ大統領が 10 月 21・22 日にシンガポールを訪問します。シンガポールが 9. 11 事件の後でテロに対する戦いにいち早く参加を表明し、また国連決議なしのイラク戦争を支持したからです。そうしなかった隣のマレーシアには大統領は立ち寄りません。世界の富も力も一極集中で、アメリカだけが超大国になりました。圧倒的な武力であらゆる批判を無視してイラク戦争を開始し、26 日間で一応終らせました。

ところがそれからブッシュ政権の茨の道が始まりました。アメリカ兵の死者が毎日のように出ています。イラク復興に膨大な予算を議会に要求すると共に、世界各国に分担を求めて働きかけなければならなくなりました。ブッシュ人気は落ちて、民主党が有利になって来ました。何とか世界各国の支持をつなぎとめようとして、東南アジアまでやってくるのでしょう。

いくら多くの富や力を集めても、それをどんどん吐き出さなければならぬでいる超大国アメリカ——私は「多く集めた者がオメル升で量ったら結局必要な分だけになっていて、余ることがなかった」という今日の聖書の言葉通りを、今神さまがなさっておられると思えてなりません。

[結] 自分の必要な分を量りなおす

アメリカばかりではありません。日本もヨーロッパ諸国も、世界の食糧と富をどんどん集めています。そして発展途上国との貧富の差はどんどん広がっています。一体どこまで集めたら、よしこれで十分だとなるのでしょうか。そんなに多くの食糧や富が必要なのでしょうか。

「オメル升で量ってみると、多く集めた者も余ることがなかった」という聖書の言葉通りに、神さまは余分な物を私たちから取り上げてしまうに違いありません。そしてそれを少ししか集めることが出来なかった者の上に、お移しになるに違いありません。

神さまは必要な分だけ与えようとお働きになるお方です。皆の持っている物の釣り合いを取ろうとしてお働きになるお方です。この神さまに逆らう者は厳しく裁かれるでしょう。神さまへの恐れを失う時、世界は滅びます。

私たちは多くを集め過ぎている自分に気づかなければなりません。自分の必要な分はどれほどかを、もう一度量りなおしてみなければなりません。これまでの生き方を修正しなければなりません。そして私たちは、皆の持っている物の釣り合いを取ろうとしておられる神さまの働きに従う者になっていきましょう。

完